

# ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.7  
体内裁判所  
法廷(1)

ここは体内裁判所 第三法廷。先月の健康道場の記事をきっかけに真実を知った心筋細胞が裁判を起こした。ことが全細胞の生死にかかわるだけに白熱した論争になっている。

**心筋細胞** ちょっと酷いじゃないですか。僕たちは心筋梗塞になるのは自分たちの宿命だと受け止めていたから文句も言わず朝から晩まで24時間働き続けているのです。せめて、生かされている間は精一杯働こうと。それが、何ですか？血液君の勘違いで、我々は兵糧攻めにあったのですよ。9月3日午前4時、その時君は確かに血管の中にいた。二日酔いだか何だか知らないが、君のちょっとした勘違いで我々は多くの同志をなくした。この責任をどうとってくれる。

**血液細胞** いや、それは言いがかりじゃないか！我々が快調に血管内を流れているとき、目の前で爆発があり油まみれになった。次の瞬間に

見たこともない細胞が周りにいれば、普通は血管外と判断すべきで、我々は止血のために消火活動に入った。結果的には血管内で君たちに迷惑をかけたかもしれないが、これが本当の出血であれば、自分たちの命も顧みず体内の全細胞を救ったレスキュー隊として国民栄誉賞だぜ。

**心筋細胞** だが、そこは、血管内だった。我々の死により全細胞を生命の危機にさらしてしまった。

**血液細胞** そうじゃないでしょう。そもそも動脈硬化がはじけるのがいけないのじゃないか？我々には罪はない。職務を全うしただけだ。

**動脈硬化** 何を言っているの。私は何も悪くないわ。考えてもごらんなさい。普段から血圧が上がって強い血流で頬を叩かれ、終わったかと思ったら黄砂のようなコレステロールの嵐に吹き付けられ、糖のペンキを体中に塗りつけられ、やっと一息つけばニコチンが頬をつねっていくのよ。これってまるでDVじゃないの？私たちはみんなに叩かれぶくぶくに腫れ上がって壊れていくのよ。この辛さが分かる。

**レポーター** お互いを攻め立て泥仕合の様相です。結審は来月です。

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科  
(県立中央病院 前)

院長 中村陽一